



## ご挨拶 (日本ログハウス協会会長/中川信治)

遅ればせながら、あけましておめでとうございます。いよいよ平成最後となる31年が始まりましたね。以前より会員皆様のご協力のもと取り組んでまいりました技術研究、広報活動も少しずつ成果として皆様にお伝えできるようになってまいりました。本年はさらなる飛躍の年となるよう、協会員一丸となってログハウス業界を盛り上げていきましょう！

## Topics 1

# ログハウス実験棟の断熱・蓄熱特性に対する検証実験 —今年度は一般ログで実施、技術講習会にて発表予定



▲タテログ撤去作業中の様子。画面右側は既に撤去した状態。腰窓廻りにタテログが残っている。

一般社団法人日本ログハウス協会では、足利大学の齋藤宏昭教授の指導のもと、2016年12月から栃木県にある同大学キャンパス内に約6畳大のログハウスの小屋を建てて、ログハウスの断熱・蓄熱特性に対する検証実験を実施中です。これは、今後ますます建物の断熱性を数値で評価することが求められていくなか、ログハウスの断熱性や蓄熱性、室温の安定性を調査するために進めています。

まず2017年度には、ログハウスの外壁の内側にパネルログを取り付けて、厚さ220mmの大径木材を想定した測定をし、2018年度からはパネルログを撤去してログハウス単体での測定を始める手筈で、木材の厚みがどのように影響するかも比較することが出来ます。

大径木材仕様では、実験棟のある足利市(5地域)での省エネ基準を凌ぐ断熱性能(区画熱損失係数4.52(5地域基準=5.9))を持ち、冬期の明け方最低室温が14℃以上と、断熱性、室温の安定性とも良好な数値であることが2017年度技術講習会の場で速報されています。

2年目となる今年度はデータ分析をさらに進めるとともに、ログハウス単体での実験を実施中です。この実験については、3月28日に開催される2018年度技術講習会にて発表する場を設けています。当協会では、今後も実験の経緯や得られた結果について、会員にお伝えしていく予定です。



▲センサー取付作業の様子。タテログを撤去する時に一旦センサーを仮撤去し、一般ログハウスに変身後、再び取りつけて次の実験に備える。

## Topics 2

## 「夢のログハウスを活かそう ログハウスの中・大規模木造の可能性」発刊

公共建築物等へ木材の利用が進められているなか、ログハウスもまたその特長を活かした中大規模建築物の実績が広まりつつあります。

今回発刊する「夢のログハウスを活かそう ログハウスの中・大規模木造の可能性」では、これまでに当協会会員が手掛けた、公共的用途のために計画された施設を数多くご紹介。

教育や医療施設、災害時の仮設住宅から先進技術を用いた大規模な商業施設まで、多様なニーズに応えるログハウスの数々を通して、住宅・別荘にとどまらないログハウスの魅力をご紹介します。新たな顧客層の獲得へ向け、ぜひご活用ください。

冊子は1,000円(税別)のことで、当協会会員の方は800円(税別)にてお求めいただけます。(一社)ログハウス協会事務局へお申し込みください。



■体裁：A4 縦・カラー 40 ページ

■定価：1,000円(消費税別) ※日本ログハウス協会会員は800円でご購入いただけます

■当カタログのお申し込み：日本ログハウス協会事務局 TEL 03-3588-8808 info@loghouse.jpn.com

## Topics 3

## エストニア共和国の木造住宅協会と当協会が友好協定を締結

(一社)日本ログハウス協会は2018年11月、エストニアの木造住宅協会との間で友好協定を締結しました。

北欧の木材やログハウスといえば日本ではフィンランドの印象が強いですが、エストニアもまた優れた材と技術を持っており、非常に大きなマーケットを誇っています。

同協会とは数年にわたり双方の国における技術視察等を通じて交流を重ねており、今回の友好協定締結を機に、日本のマーケットへ向けた商品開発や毎年開催されるハンドカット技術を競う大会への参加など、ビジネスと文化の両面でさらに活発な交流が期待されています。今後の日本とエストニアのログハウス事業における発展に注目していきましょう。

サインの後、笑顔で握手を交わすエストニアの Lauri Kivil 代表と協会会長 中川 信治氏▶



発行

一般社団法人 日本ログハウス協会 事務局

TEL ■ 03-3588-8808

FAX ■ 03-3588-8829

東京都港区赤坂 2-2-19 アドレスビル 1F  
Email ■ info@loghouse.jpn.com

<http://www.loghouse.jpn.com/>